

2 LVC こどもチーム

こどもチームの紹介とサービス内容について
～こどもが希望をもって活躍できる社会の実現にむけて～

昨今の少子化、核家族化、デジタル化、グローバル化、価値観の多様化により、こどもを取り巻く環境は大きく変動している。不登校や自殺、虐待、貧困など、こどもに関わる課題は深刻の一途をたどっている。2022年、NTTデータ経営研究所ではこどもに関心を寄せる14人のコンサルタントが集まり「こどもチーム」を結成。それぞれの専門分野を生かし「こどもが希望をもって活躍できる社会の実現」に向けて取り組むこどもチームについて話を伺った。

——2022年度、こどもチームを立ち上げられたと伺いました。立ち上げのきっかけを教えてください。

米澤 こどもを取り巻く環境は、少子化、核家族化、デジタル化、グローバル化、価値観の多様化など、昨今の社会的背景によって大きく変化してきました。近年はこどもの不登校や自殺、虐待、さらにはこどもの貧困についても増加傾向にあります。

こどもに関わる課題は多岐にわたり、かつ山積みになっているのが実情です。結婚・妊娠前から乳幼児、学生など、年代に応じて、教育・福祉・医療にまたがるさまざまな課題があり、複雑に絡み合っています。例えば、こどもの貧困が教育格差を生み、成長機会を逸することにつながり、そして将来の経済格差がそのこどもの貧困を生むといった貧困の連鎖をもたらすこともあります。

このため、複雑化する問題に対し、社会全体として包括的にこどもを支える取り組みが必要になっています。

弊社ではこのような社会背景を踏まえ、こどもに関わる課題解決に関心を持つ有志14人のコンサルタントが集まり、2022年に「こどもチー

株式会社 NTTデータ経営研究所
ライフ・バリュー・クリエイションユニット
パートナー 米澤 麻子 氏

ヘルスケア領域の事業開発の経験を有し、医療・保健・福祉分野のコンサルティングや調査に取り組む。専門はヘルスケアビジネス、社会保障。「持続可能な社会づくり」に向けて政策と現場をつなぐことを目指し、健康・医療・介護分野の政策全般に精通している。健康・医療分野では、健康寿命延伸、PHR、遠隔医療、IoT・AI×医療等の調査研究・実証事業に携わり、企業や保険者に対するヘルスケア事業の調査・コンサルティングも行う。また介護分野では、地域包括ケア、ケアマネジメント、医療介護連携、IoT・AI×介護の調査・実証事業も手がける。



ム」を結成しました。以来、「こどもが希望をもって活躍できる社会」の実現に向けて、積極的に活動を行っています。

——どのようなメンバーが集まったのですか？

米澤 看護師、社会福祉士・精神保健福祉士、助産師、公認心理師、特別支援教育の教員免許保有者などの有資格者や、障がい者や生活困窮者支援、心理相談室での支援、発達障がい児のデイケア、精神科・心療内科の開業支援、NPO起業経験者など、こどもとその周りの環境にアプローチするために必要なプロフェッショ

ナルが集まりました。これに加え、これまで弊社が高齢者施策に関して福祉や健康・医療、地域づくり、データ活用において培ってきた実績も当事者の尊厳、ケアの社会化、地域のプレイヤーの連携による包括的な支援という点で次世代に向けた支援に生かしていけるのではないかと考えています。(図1)

こどもチームでは、「①こどもから直接意見を聞き」、「②特に困難を抱えるこどもに対しては環境を整えること」、「③地域全体でこどもと親を支えること」を重視したコンサルティングサービスにこれまで取り組んできています。

——まずは、「①子どもから直接意見を聞く」について教えてください。

小林 2023年4月、複数省庁にまたがっていた施策を統合的に担うことを目指し「こども家庭庁」が発足しました。同年5月に施行されたこども基本法では、年齢によって必要な支援が途切れないよう、心と身体の発達過程にある人を「こども」としています。こどもの成長過程に合わせて、状況に応じた支援ができる体制が求められています。

こども家庭庁が提唱し、こどもの最善の利益を考える「こどもまんなか社会」に向けて、最も重視されていることが「当事者であるこどもの意見に耳を傾けること」と「それを政策に反映すること」です。こどもチームではこの施策の支援プロジェクトに関わっています。

このプロジェクトでは、こどもの意見を直接聞き、国や自治体の政策に生かしていくための手法を研究しています。これまで日本では、こどもは親の庇護^{ひご}※1の下にあるとの考

株式会社 NTTデータ経営研究所
ライフ・バリュー・クリエイションユニット
シニアマネージャー **小林 洋子** 氏

心理学や行動経済学などの行動科学の知見を用いて人が行動しやすい環境を作り、社会課題や経営課題の解決を図る社内横断組織「行動デザインチーム」を立ち上げ、行動デザインコンサルティングを行う。健康づくりや予防医学、安全、まちづくり、こども施策など人が関わる分野において、行動をキードライバーとして問題をとらえ、コミュニケーションを通じて人の本音と向き合いながらよりよいアプローチをデザインしている。近年は公私ともに、こどもの意見表明やこども参画に携わるほか、NPO法人や自治体の委員、大学での非常勤講師としても活動している。



え方が根強く、こどもは支援の対象であっても権利の主体という意識が薄く、当事者でありながら意見を直接聞かれる機会があまりありませんでした。そこで、こどもの意見をどうすれば聞けるか、また、こどもの意見・本音をどう引き出して政策に反映するかについて、こども家庭庁の委託事業で国内外の調査を行いました。今年度は行政職員向けのガイドライン作成やこどもの意見を引き出すファシリテーター養成のモデルプログラム作りに関わっています。

※1：かばって守ること

——次に、「②特に困難を抱えるこどもに対しては環境を整える」とはどのようなことですか？

米澤 困難を抱えるこどもは家族関係や経済状況など、複雑な背景を抱えていることが多くあります。こどもが虐待を受ける背景の一つには、産後うつや子育て世帯の孤立により保護者が精神的に追い詰められている場合もあります。

このような背景を踏まえて、保護者が不在で家庭での養育が難しいこどもを支えるための里親制度や児童養護施設といった「社会的養護」に関する調査研究を実施しています。社会的養護の言葉が示すように、こどもの自立的な人生の実現に向け、養護対象のこどもを地域や社会で育てていくことが重要となっています。しかしながら、里親や児童養護施設における支援人材の数が乏しいというのが実情です。このため、人材の確保や質の向上、さらに地域連携による自治体や民間・NPOなどさまざまな機関による包括的な支援が求められています。

こどもに関わる多様な主体と連携し、目指す姿の実現に向けて取り組みます

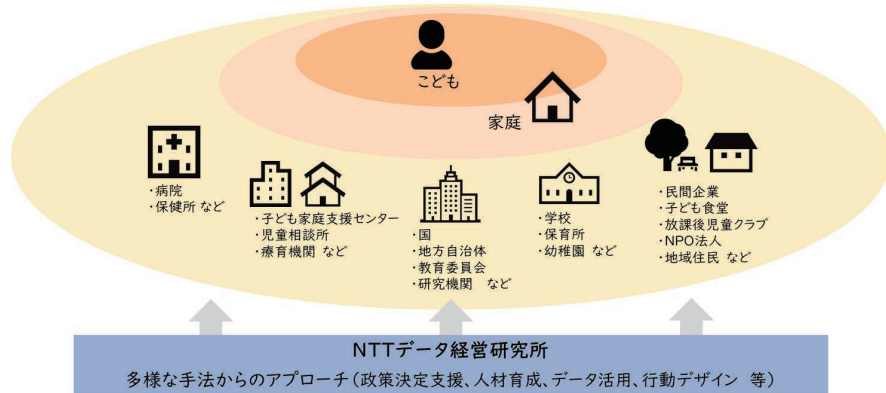


図1 こどもチームが目指すアプローチ

実は、このような地域連携による包括的な支援の在り方は、高齢者施策における地域包括ケアとよく似ています。高齢者の地域包括ケアでは、地域の各主体が協力し合い、顔の見える関係づくりから有機的な連携(異なる役割を持った組織や人たちが、地域全体として一つの目標を達成するため、お互いに不可欠な相互作用をする補完関係)に向けた取り組みが行われています。この取り組みは、こども領域において縦割りとなってきた支援を横断的なものにするために参考になると感じています。

弊社では、従前より高齢者福祉に関する取り組みを多数実施しており、そこで得た知見がこども福祉の領域においても生かせる部分があると考えています。

——最後の「③地域全体でこどもと親を支える」も、これまでの取り組みを生かしたものでしょうか。

小林 そうですね。地域づくりや地域包括ケアの取り組みが通じていると感じます。

その一つが、地域の少子化対策です。地域の少子化対策の対象は、こどもだけでなく、若年世代の雇用や住まいの支援なども含め、総合的に考えていく必要があります。またひきこもり、孤独・孤立などは共生する社会とも密接な関係があるため、地域の実情(人材や予算など)に応じて優先順位をつけた施策が不可欠になります。弊社では、こうした地域課題の特定から課題解決のステップを整理し、伴走的に支援する取り組みを行っています。



また、こどもに関する各種データ連携による効果的なサポートや仕組みについても実証を行っています。デジタル庁の事業(現在はこども家庭庁に移管)では、保育園、学校、行政、医療機関等に分散していたこどもに関するデータを連携し、困難を抱えたこどもや家庭のSOSをキャッチすることで、プッシュ型の支援に挑戦しました(当事者からの申請を待つことなく支援を届ける仕組み)。具体的には、石川県加賀市の中学校の協力を得て、マイナポータルで取得できる行政情報(世帯所得や生活保護等の受給状況、乳幼児健診や予防接種状況など)と学校が保有する教育情報を本人同意に基づいて連携し、潜在的な要支援生徒を抽出して早期のアプローチを行うことに寄与しました。

上記のほか、こどもの健康・医療の観点からこどもの心の健康やこどもホスピスに関する調査研究も進めているところです。

——最後に、今後に向けたメッセージをお願いします。

米澤 「こどもが希望を持って活躍できる社会」を実現するためには、多様な主体との連携による多面的なアプローチが不可欠です。私たちこどもチームは、弊社が持つ強み(政策策定支援、人材育成、データ活用、行動デザインなど)を生かし、当事者・行政・専門機関・地域づくりなどの多様な視点から、現状把握からビジョン策定・実行支援まで、こどもに関わる多様な主体と連携しながら、それぞれの状況に応じたコンサルティングサービスを提供していきます。皆様と一緒に、次世代を目指す社会に向けた取り組みを進めていきたいと考えています。